大阪府、大阪商工会議所の五代友厚と若宮商工稲荷神社

沢　勲*・西山 正明**・朴 永炅*・木村 和生*
関西大学校友会西淀川支部**・洞窟環境 NET 学会*

Tomoatsu GODAI and its Wakamiya-shoko-Inari Shrine, Osaka Chamber of Commerce and Industry

Isao SAWA*・Masaaki NISHIYAMA**・Yong-Kyung PARK*・Kazuo KIMURA*

ABSTRACT

The writers studied origin and present about the relation between the Osaka Chamber of Commerce and Industry: OCCI and Wakamiya Inari shrine. The Chamber of Commerce and Industry is a free membership public utility economic organization organized by commerce and industry in certain areas such as the city for the purpose of improving and developing commercial and industries.

The Osaka Chamber of Commerce and Industry: OCCI is an OCCI building located at 2-8 Honchochabashi, Chuo-ku, Osaka-shi. Godai Tomoatsu and Wakamiya business and industry Inari Shrine are the areas where popular NHK continuation telenovel becomes chief character, the Asano model of "Asagakita". As for the bronze statue of three presidents of OCCI, it is enshrined in the OCCI building south side.

The president of three people was one who had a great deal of achievement in modernizing and internationalizing Osaka. GODAI Tomoatsu of the first president from the left, DOI Mitio　at the head of the 7th generation, Katsutaro INABATA at the tenth president.　They are a heavyweight of the Osaka business community that has greatly contributed to the development of the Osaka economy, aiming to reorganize the commercial and industries, to rebuild the credit order, in order to rebuild the Osaka economy, which is struggling in the early Meiji era due to the wave of the innovation.

Tomoatsu GODAI of the Osaka chamber of commerce first generation president erected the Wakamiya business and industry Inari shrine in the depths of the bronze statue. Tomoatsu GODAI was dedicated to the shrine of "Wakami Inari Shrine" dedicated to the development of commercial and industrial development in Osaka and the Shinto shrine of "Wakamiya Inari shrine" which was in the construction site of OCCI in UchihonTown. After that, it was erected newly.

キーワード:大阪府、商工会議所、神社
Keywords: OSAKA、the Osaka Chamber of Commerce and Industry: OCCI、Shinto shrine
[洞窟環境 NET 学会紀要8号][Cave Environmental NET Society(CENS) , Vol.8(2017),　-　pp]

目次:1.はじめに、 2.大阪商工会議所、 3.若宮稲荷神社、 4 おわりに
謝辞　参考文献　年代別表

1.はじめに

商工会議所（Chamber of Commerce and Industry）は、商工業の改善・発展を目的として、市など一定地区内の商工業者によって組織される自由会員制の公益経済団体である。大阪商工会議所（The Osaka Chamber of Commerce and Industry：OCCI）は、大阪市中央区本町橋 2-8 にある大阪商工会議所ビルである。

人気の NHK 連続テレビ小説「あさが来た」の主人公・あさのモデルとなっている広岡浅子のゆかりの地である。大阪商工会議所の会頭３人の銅像は大阪商工会議所ビル南隣りに鎮座されている。３人の会頭は大阪の近代化や国際化に多大な功績があった方である。向かって左から初代会頭の五代友厚、７代会頭の土居通夫、１０代会頭の稲畑勝太郎である。彼らは明治初期、維新変動の波を受けて低迷する大阪経済を立て直すために、商工業の組織化、信用秩序の再構築を図り、大阪経済の発展に大きく貢献した大阪経済界の重鎮の一人である。

銅像の奥にある若宮商工稲荷神社は、大阪商工会議所初代会頭の五代友厚が大阪の商工業発展を祈念して奉祀した「**商工稲荷神社**」と内本町の大阪商工会議所移転建設用地内にあった「**若宮稲荷神社**」のご神体と合祀され、新たに建立された。

2.大阪の環境と経営

大阪府地域区分は大阪府の定義による。政令指定都市は、大阪市-24 区 当初の 4 区から 5 度にわたる再編を経て現在は 24 区になっている。面積:1,905.14km²。総人口:8,840,086 人（推計人口、2016 年 8 月 1 日）。人口密度:4,640 人/km²。隣接都道府県は京都府、兵庫県、奈良県と和歌山県である。府の木:イチョウ。府の花:ウメ、サクラソウ。府の鳥はモズである。

環境行政全般では、①環境アセスメント，②環境活動、③環境技術と④エネルギーに分類できる。生活環境保全全般では、①化学物質、②大気汚染、③自動車排ガス、④水環境・水質汚濁、⑤土壌汚染・地下水および⑥騒音・振動・悪臭に分類できる。経営支援では、商工労働ポータルサイト「つなぐ」、経営支援,経営革新、創業・ベンチャークリエイティブ産業,デザイン支援等である。経済交流促進では、販路開拓支援と国際ビジネス支援に分類できる。金融支援:融資では、貸金業・返済困難者対策がある。その他には、ものづくり支援では、ものづくり支援拠点の推進とビジネスマッチング支援、ものづくりイノベーション支援技術・知的財産支援および計量等である。商業支援では大規模小売店舗立地法,中小企業組合と官公需。バイオ振興・新エネルギー産業振興とバイオ:新エネルギー産業振興塔がある。

2.大阪商工会議所

大阪商工会議所の歴代会頭

初代 五代友厚 1878 年～1885 年 朝陽館

第 2 代 藤田伝三郎 1885 年～1888 年 藤田組（現・DOWA ホールディングス）。

第 3 代 田中市兵衛 1888 年～1891 年 第四十二国立銀行。

第 4 代 磯野小右衛門 1891 年～1893 年 堂島米会所。

第 5 代 田中市兵衛 1893 年～1894 年。

第 6 代 浮田桂造 1894 年～1895 年 大阪硫曹（現・日産化学工業）。
第 7 代 土居通夫 1895 年～1917 年 大阪電灯（現・関西電力）。
第 8 代 山岡順太郎 1917 年～1921 年 大阪商船(現・商船三井)。関西大学第 11 代学長「1922(大正 11)年 5 月～1925(大正 14)年 3 月」。大阪住宅経営を設立。千里山一帯の住宅開発を手がけるとともに学長を務めていた関西大学を同地に移転するなど、千里ニュータウン開発の先駆けを担った。長男の山岡倭は関西大学北陽高等学校の創立者である。
第 9 代 今西林三郎 1921 年～1922 年 大阪同盟汽船（現・商船三井）
第 10 代 稲畑勝太郎 1922 年～1934 年 稲畑商店（現・稲畑産業）

2-1.五代友厚

2-1-1.五代友厚像(左)

略歴:大阪商法会議所(現大阪商工会議所)第 1 代会頭「明治 11(1878)年 9 月～明治 18(1885)年 9 月。**出身地**:薩摩国鹿児島郡、天保 6(1836)年 12 月 26 日生れ。**職歴**:金銀分析所、大阪活版所、弘成館、朝陽館、大阪製銅会社、大阪株式取引所、大阪商法会議所、大阪商業講習所創設など。

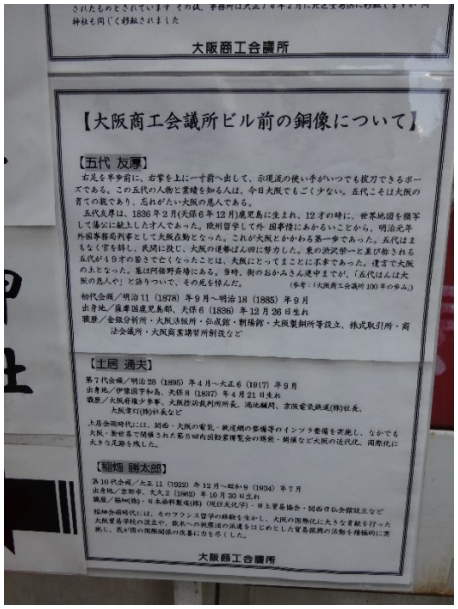

写真 2-1.銅像横銘板碑文

五代友厚の銅像横銘板碑文：「大阪市内所在産業経済史蹟碑の拓本」より転載。君の諱(本名)は友厚、通称は才助、鹿児島藩士。幕末日本の前途を察し、安政年間に長崎へ行って航海術を学んだ。そして藩の密命をおびて上海に潜航、軍艦を購入し、帰国後はその艦長となった。のちに寺島宗則等留学生をひきいてヨーロッパを巡遊、各国の商工事業を研究し大いにうる所あり、帰って藩の商事を運営するとともに、始めて長崎にドックを設けた。明治になって政府の参与に任ぜられ、外国官会計官判事、大阪府判事を歴任、従五位に叙せられた。その後、官を辞して大阪に居を移し、金銀分析所を設け各地の鉱山を開いた。

また商業会議所を創立、政界と財界の間をとりもって諸企業を奨励し会社を作り、後の人の範となり公益をはかったことはまことに大であった。明治 18(1885)年 9 月 25 日、50 才にして病のため没した。勲四等旭日小綬章を受く。知人や商業会議所議員が相談して、商業会議所の前庭に肖像を建て追慕の意を表わすことにした。明治 33(1900)年庚子 9 月、勅選議員 文科大学教授 正四位 勲三等 文学博士 重野安繹 撰ならびに書。

写真 2-2.現大阪商工会議所

写真 2-3.現大阪商工会議所の左から初代会頭の五代友厚、７代会頭の土居通夫、10 代会頭の稲畑勝太郎。

2-2.土居通夫

2-2-1.土居通夫像（中）

略歴:現大阪商工会議所第 7 代会頭「明治 28(1895)年 4 月～大正 6(1917)年 9 月。**出身地**:伊豫国宇和島、天保8(1837)年4月21日生れ。**職歴**:大阪府権少参事、大阪控訴裁判所所長、鴻池顧問、京阪電気鉄道(株)社長、大阪電灯(株)社長など土居会頭時代には、関西・大阪の電気・鉄道網の整備等のインフラ整備を実施し、なかでも大阪・新世界で開催された第5回内国勧業博覧会の誘致・開催など大阪の近代化、国際化に大きな足跡を残しました。

2-2-2.土居通夫の銅像横銘板碑文

「大阪市内所在産業経済史蹟碑の拓本」より転載。·君の諱(本名)は通夫、宇和島藩士、本姓は大塚であるが土居家をついだ。嘉永、安政以降の日本の行末を案じて脱藩、姓名を変え近畿に出て諸藩の志士と交った。のち、藩命によって士籍に復し大阪に住み明治新政府の外国事務局につとめ従五位に叙せられた。明治 17(1884)年辞職して電灯会社紡績会社などを興した。商業会議所の会頭には明治 28(1895)年就任、その運営よろしきを得、欧米に外遊し70才をこえる高令ながら清国をも訪ねた。大正 4(1915)年秋、即位の大禮にあたり、勲三等旭日中綬章を授かる。大正 6(1917)年9月9日、81 才で卒したが、特に正五位に段せられた。温厚な性格で、人の意見をよく聞き容れ誰からも信頼された。また、無腸と号する文雅の人でもあった。 大正 7(1918)年六月　正五位　藤沢南岳撰　 梧窗湯川亨書

2-3.稲畑勝太郎

2-3-1.稲畑勝太郎像（右）

略歴:現大阪商工会議所第 10 代会頭「大正 11(1922)年 12 月～昭和 9(1934)年 7 月。**出身地**:京都市、文久 2(1862)年生れ。**職歴**:稲畑(株)、日本染料製造(株)、日土貿易協会、関西日仏会館設立など·稲畑会頭時代には、そのフランス留学の経験を生かし、大阪の国際化に大きな貢献を行った大阪貿易学校の設立や、欧米への視察団の派遣をはじめとした貿易振興の活動を積極的に実施し、わが国の国際関係の改善に力を尽くしました。

2-3-2.稲畑勝太郎の銅像横銘板碑文

「大阪市内所在産業経済史蹟碑の拓本」より転載)。君は文久 2(1862)年 10 月京都に生まれ、明治 10(1877)年京都府からフランス留学生として派遣された。もっぱら染色化学を勉強し、ドイツやスイスにも渡って 8 年間研究した。帰国後は、染色、梳毛、洋反物、染料製造などの会社を企画したが、すべて成功した。君の人となりは、英邁で豁達である上に人とは誠をもって接したので、衆みなその意見にしたがった。明治 44(1911)年、大阪商工会議所議員に選ばれ、副会頭に三度、そして会頭を四期つとめた。昭和 9(1934)年七月、前後 22 年にわたる在職ののち辞任したが、その間日本商工会議所副会頭を兼ねた。

また、ルーマニア・バリビア・ベルギー・ポーランド・ポルトガルなどの名誉領事に任じ、しばしば外遊、各国の元首・名士を訪問し商工業を視察すること 10 回、国民外交に大きく貢献した。正六位勲三等に叙せられ、ローマ法王などからも勲章を受けた。貴族院議員。君の功績を永く伝えるために大阪商工会議所の前庭に銅像をたてることを総会で決議した。昭和 10(1935)年 7 月　長尾甲、撰ならびに書。

3.若宮稲荷神社

3-1.若宮稲荷（わかみやいなり）神社の由来

延宝元（1673）年、出来大工町の乙名・若杉喜三太が開創。伊良林郷の鎮守の神として崇敬を集め、“若宮様”と親しまれるようになった。明治元（1868）年、社号を伊良林稲荷神社と改称し、明治 29（1896）、境内の大改修等を行い、現在の神域を創成した。秋の祭り（10 月 14・15 日）に奉納される行事「竹ン芸（市指定無形民俗文化財）」は有名で、男狐・女狐の面をつけた若者が高さ 10m 余りの 2 本の青竹の上で曲芸を行った。神社の使いである男狐と女狐が若宮神社の御神徳をよろこんで裏の竹藪で遊ぶ姿を模したものといわれた。

「若宮稲荷神社」は、天正 11(1583)年、豊臣秀吉が大坂城築城にあたって奉祀し、加護を祈願したのが始まりである。また、江戸時代、この地に西町奉行所が設けられ、同神社は一般庶民にも広く崇敬され、明治 27(1894)年には府立大阪博物場の鎮守神として永世奉祀されることになった。

若宮稲荷社重修記（記念碑）：神社境内の灯籠横には、「若宮稲荷神社」の縁起を記す「若宮稲荷社重修記」があり、昭和 12（1937）年4月、大阪府知事名で概ね以下のような趣旨の文言が記されている。豊臣秀吉が大坂築城にあたって豊受大神（トヨウケ）並びに火闌降命（ホスソリ）を奉祀して水土の加護を祈願した。幾何もなく豊臣氏滅んでその祭祀途絶えたが、後に徳川氏が西町奉行所を置いた。火闌降天神社は火災で湮滅した稲荷社は崇敬しいよいよ篤き加え、明治維新の時を経てかわらず、明治 18(1885)年　構内庭園改修の時一時他に移転したが、同 27(1894)年府立大阪博物場の鎮守神として永世奉祀すべき旨府知事より指令された。これにおいて有志等が相謀って社殿を修復し祭具、石華表等を寄進した。昭和 9(1934)年松屋町筋道路拡張に伴い社宇を重修し、また神域を拡張した。

3-2.商工稲荷神社の由来

大阪商工会議所初代会頭の五代友厚は信仰心に厚く、当時武家階級をはじめ大阪商人からも崇敬の念を集めていた船場淀屋橋の御霊神社に、大阪の商工業発展のため商工稲荷祭の神事の挙行を求めたのが、「商工稲荷神社」の縁起とされている。五代が会頭であった明治 12(1879)年1月に現在の中央区高麗橋三丁目（三菱東京 UFJ 銀行大阪営業部あたり）に、当時の大阪商法会議所事務所を新築していることから、その頃に奉祀されたものと思われる。その後、事務所は明治 24(1891)年3月に北区堂島浜（現在の NTT テレパーク堂島付近）に移転しますが、同神社も同じく移転されました。

内参道：境内参道両側の苔生す植え込みにはヒラドツツジやカイズカ、マキ、サツキなどの木々が茂り、瀟洒な鎮守の森の趣を漂わせています。参道の傍らには手水舎や狛犬、行燈、石碑などが配置され、夜には本殿両側にある行燈に灯りがともされ、昼間のビジネス街の喧騒がうそのように、幻想的で風雅な情景が浮かび上がる。

本　殿：神社境内の一番奥に鎮座する本殿は、昭和 43（1968）年に大阪商工会議所ビルの建築と共に新たに建立された。瀟洒な佇まいの本殿は、御霊神社神職のご指導により設計された本格建築の社殿である。火災に備えた鉄筋コンクリート造りの社殿で、社殿内には**「商工稲荷」と「若宮稲荷」**のご神体が並んで祀られている。

3-3.若宮商工稲荷神社

銅像の奥にある若宮商工稲荷神社は、大阪商工会議所初代会頭の五代友厚が大阪の商工業発展を祈念して奉祀した「商工稲荷神社」と内本町の大阪商工会議所移転建設用地内にあった「若宮

稲荷神社」のご神体と合祀され、新たに建立された。

若宮商工稲荷神社の由来：大阪商工会議所ビル（大阪市中央区本町橋2－8）南隣りにある若宮商工稲荷神社は、大阪商工会議所初代会頭の五代友厚が大阪の商工業発展を祈念して奉祀した「商工稲荷神社」が、大阪商工会議所の移転に伴って堂島から現在の内本町へ移されることとなり、昭和40（1965）年9月に移転先である内本町の建設用地内にあった「若宮稲荷神社」のご神体と合祀され、新たに建立されたものです。以来、現在に至るまで大阪商工会議所歴代の会頭をはじめ多数の方々がご参拝されており、地元商工業関係者の方々はもとより、地域住民のみなさんにも鎮守として親しまれ、広くご参拝をいただいています。

写真 2-4.若宮商工稲荷神社参道

写真 2-5.若宮商工稲荷神社拝殿

写真 2-6.神社の扁額

若宮商工稲荷祭：日時：平成28年5月17日（火）午前10時00分～11時00分。**祭礼**：初代会頭五代友厚にならって御霊神社から神職をお迎えし、祝詞の奏上や雅楽の奉奏、巫女神楽などが行われる。**移転：**堂島の旧大阪商工会議所ビル時代から、現在地へも「若宮商工稲荷祭」を継続している。**儀式**：大阪商工会議所関係者や地元関係者ら出席者による玉串奉奠などの儀式が行われている。**稲荷祭**：上記関係者のみによる非公開の儀式となっていますが、儀式終了後のご参拝は自由に行っていただけます。なお、稲荷祭は、毎年5月に挙行されています。**お正月：**お正月には新しい注連縄に鏡餅などもお供えし、幟をたてた華やかなお正月の装いで、地元商工業者や地域住民などの参拝者をお迎えしている。**行事：**毎月15日と25日幟をたてて神社を晴れやかに装い、地元商工業者や地域住民などの参拝者をお迎えしている。**その他：**毎月、若宮稲荷神社の縁起に因んだ 15 日、大阪商工会議所初代会頭である五代友厚の命日（明治 18（1885）年9月 25 日）に因んだ 25 日、（いずれも土日・休日等の場合は前後複数日）には、幟をたてて神社を晴れやかに装い、地元商工業者や地域住民などの参拝者をお迎えしている。

写真 2-6.若宮商工稲荷神社案内

３-4.西町奉行所

幕府直轄地の大坂では、老中支配の大坂町奉行が、警察・司法・行政の任にあたりである。町奉行所は地理的位置により東西両奉行所がおかれ、1 カ月交代で執務した。東・西の奉行所は現大手前合同庁舎のところに並んで、享保（きょうほう）9 年（1724 年）の大火後、西町奉行所は当地に移ったそうである。

参考文献

1)五代龍作;「五代友厚伝」、1933 年。

2)直木三十五;「大阪物語第 6 巻五代友厚」、改造社、1934 年。

3)織田作之助;「五代友厚」、現代新書、1956 年。

4)山中園子;「五代友厚秘史」、五代友厚七十五周年追悼記念刊行会、1960 年。

5)西村重太郎;「五代友厚小伝」(大阪商工会議所、1968 年。

6)村山公三;「五代友厚伝記資料第 1～4 巻」、日本経営史研究所、1970-1974 年。

7)大阪商工会議所;「五代友厚関係文書目録」、大阪商工会議所、1973 年。

8)宮本又次;「五代友厚伝」、有斐閣、1981 年。

9)真木洋三;「五代友厚」、文藝春秋、1986 年。

10)小寺正三;「起業家　五代友厚」(現代教養文庫、1988 年。

11)渡部修;「功名を欲せず」、毎日コミュニケーションズ、1991 年。

12)大阪市史編纂所;「大阪市の歴史」、創元社、1994 年。

13)阿部牧郎;「大阪をつくった男　五代友厚」、文藝春秋、1998 年。

14)島実蔵;「大阪でごわす　明治商都物語」、時事通信社、2001 年。

15)秦郁彦編;『日本近現代人物履歴事典』、東京大学出版会、2002 年。

16)熊博毅;『「学の実化」―山岡順太郎・倭父子展―』、関西大学年史紀要第 19 号、2003 年。

17)佐江衆一;「士魂商才　五代友厚」、新人物往来社、2004 年。

18)童門冬二;「ニッポンの創業者」、ダイヤモンド社、2004 年。

19)早瀬利之;「午後の刺客」、光人社、2006 年。

20)藤田衣風;「特別研究　藤田傳三郎の真実」、『歴史研究』、2006 年。

21)菅春貴;「歴史有名人の晩年と死」、新人物往来社、2007 年。

22)佐江衆一;「江戸の商魂」、講談社、2008 年。

23)佐藤英達;『藤田組の発展その虚実』、三恵社、2008 年。

24)高橋直樹;「五代友厚　蒼海(うみ)を超えた異端児」、潮文庫　潮出版社、2015 年。

25)市川訓敏;「土居道夫と五代友厚」、関西大学年史起要、

26)阿部武司;「近代大阪経済史」、大阪大学出版会。

27）http://www.osaka.cci.or.jp/wakasj/

28）http://blog.goo.ne.jp/raishou0213/

別表.大阪商工会議所の年表

和歴	西暦	年代順の内容
明治 11	1878	大阪商法会議所設立 初代会頭に五代友厚 就任
明治 15	1882	大阪の商慣習を調査
明治 24	1891	大阪商業会議所へ改組、会員選挙実施
明治 27	1594	日清戦争の影響調査
明治 31	1898	第5回内国勧業博覧会の大阪開催を建議
明治 35	1902	商業会議所法発布
大正 03	1914	貿易語学校の経営など、実務教育面にも事業を拡大
昭和 08	1933	昭和8年 第1回商工祭開催
昭和 15	1940	昭和15年 第1回珠算検定試験実施
昭和 28	1953	大阪経済振興審議会（会長：杉会頭）を設置、「大阪経済の振興方策」とりまとめ
昭和 29	1954	商工会議所法制定により「大阪商工会議所」となる
昭和 40	1965	初の京阪神三商工会議所懇談会開催
昭和 45	1970	優良商工従業員表彰を開始（日本万国博覧会開催）
昭和 46	1971	佐伯会頭を団長に訪中関西財界代表団を派遣 経営情報センター開設
昭和 47	1972	（財）関西産業公害防止センター（現、（財）関西環境管理技術センター）設立
昭和 48	1973	賢島研修センター開設
昭和 49	1974	市内23支部を設置
昭和 51	1976	「都市の復権」をテーマに大阪都市文化会議を開催
昭和 53	1978	留学生里親制度発足
昭和 57	1982	大阪 21 世紀協会設立
昭和 58	1983	第1回国際貿易・投資コンベンション（現G－BOC）開催
昭和 59	1984	大阪コンベンション・ビューロー設立（国立文楽劇場完成）
昭和 62	1987	大商VAN稼動 パソコンネットワーク開始
昭和 63	1988	大商人材情報プラザ開設 留学生相談室設置

沿革(明治 11～昭和 63 年) http://www.osaka.cci.or.jp/Shoukai/Rekishi/nenpyou.html